Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU

II－B－12

小児に対する麻黄附子細辛湯の長期投与について

香杏舎ヒガサクリニック
○日笠　穣、日笠　譲

【目的】1990年の本学会で、麻黄附子細辛湯が証に関係なくアレルギー性鼻炎や風邪の鼻症状に有効であり、即効性のあることを報告した。麻黄附子細辛湯は、アレルギー性鼻炎の治療に広く使われており有効性についての論文も多い。だがいずれの論文も3日から4週間までの投与であり、長期投与した場合の副作用や問題点についての報告はない。この方剤は冷えのある寒証に使うものであるとされており、方剤中に附子を含むため、陰虚、熱証の患者に投与するのは禁忌とされている。今回、小児に40週以上にわたって麻黄附子細辛湯を投与した3例をもとに、麻黄附子細辛湯の長期投与の安全性、副作用、適応体質について報告する。

【対象と結果】症例1は7才女子。気管支喘息治療のために麻黄附子細辛湯を1日4カプセル、58週にわたって投与。症例2と症例3はアレルギー性鼻炎の6才と9才の男子。麻黄附子細辛湯2カプセルと4カプセルをそれぞれ45週と40週にわたって投与した。3症例ともに喘息発作や鼻症状は消失し、鼻血、のぼせ、不眠、胃腸障害などの副作用もなく、現在まで成長障害もみられていない。

【考察】方剤中の麻黄は、高血圧、不眠をおこし、附子は高血圧を起こすことがある。特に附子は熱証体質には禁忌とされているため基本的に熱証の小児に使用する場合に不安を感じる。麻黄附子細辛湯はその処方構成から考えて長期投与を避けるのが望ましく、症状が消失すれば、他の方剤に切り替えるべきである。だがカプセル製剤のため服用しやすく、小児の場合には長期投与になりがちである。

副作用は胃腸障害、不眠、動悸、口渇などが知られている。今までに数十万カプセルを使用してきた経験では、大人、子供ともに重篤な副作用はなく、40才の女性で心室性不整脈がある患者で不整脈が増加する傾向がみられたため使用を中止したケースが1例あったのみであった。

【結論】麻黄附子細辛湯の使用に際しては、小量から始め不眠、動悸などの症状に注意しながら投与すれば、小児であっても比較的安全に長期投与できる可能性が示唆された。

NII-Electronic Library Service